

Mori Dialog

[モリダイアログ]

vol. 1
October 2020

Check it!

NEWS & TOPICS

盛岡大学・盛岡大学短期大学部に関する最新ニュースをお届けします。

！ 新型コロナウイルスに関する対応

5月より自宅でも授業を受けられるよう、オンライン授業を開始しました。7月末には対面授業を再開し、大学入り口に設置したサーマルカメラで検温してから入校する等の対策を取っています。



🍱 コロナに負けるな！ 盛岡大学エール丼を食べて頑張ろう

学生支援のため、JA 新いわて様より県産米 500kgが贈られました。この寄贈米を使用した丼メニューを、盛岡大学生生活協同組合様協力のもと、「エール丼」(200円)として販売。学生にも大好評でした。



💻 Web オープンキャンパス開催

コロナ禍でも自宅で気軽にオープンキャンパスに参加できるよう、今年はWebオープンキャンパスを実施しました。模擬講義などの動画を配信し、6月は約700人、8月は約1000人にご参加いただきました。



💡 Mini 施設見学会

7月の毎週土曜日に、高校生1日20名限定で開催しました。キャンパスツアーをメインに、実習室の様子や授業風景などを紹介。実際の学生生活をイメージしてもらいました。



📖 イメージCM作成

8月より本学のイメージCMを放送しています。最後に出る「Dialog」が目印。実際の教職員や学生が出演しています。BGMはなんと本学オリジナルソング「対話の先に未来を創る」です。ぜひご覧ください。



！ かわいいお客さん

コロナ禍で休講中、学生が居らず静かだったためか、中庭にうさぎが住み始めました。葉っぱを食べる姿は教職員の癒しとなっていました。本学には自然がいっぱいです。



「未来を創る対話」 70周年・40周年の節目に向けて

キャッチコピー

「対話の先に未来を創る」

「対話」とは、
「個人内で行われる対話」＝「考えること」
「自分と違うもの対等なものの中で成立するもの」＝「個の確立」
「自然や環境との対話」＝「自らの経験を豊かにすること」
などを意味します。

ロゴマーク

MORIOKA UNIVERSITYの頭文字「M+U」をモチーフに構成しました。10本の棒は十人十色、それぞれの個性を生かす。という意味が込められています。対話が知をつなぎ、人をつなぎ、未来へつないで行きます。



ごあいさつ	2
特別対談	4
研究室紹介	6
在学生紹介 盛大ストーリー	12
卒業生メッセージ	13
部署紹介	14
INFORMATION	15
NEWS & TOPICS	16

Mori Dialog
[モリダイアログ]

vol.1 October 2020
2020年10月発行
■編集・発行 盛岡大学・盛岡大学短期大学部
■編集長 広報戦略室 室長 小川修平
■〒020-0694 岩手県滝沢市砂辺808番地
■URL <http://www.morioka-u.ac.jp/>

Mori Dialog
モリダイアログ

盛岡大学の略称「モリダイ (Moridai)」と、対話 (Dialog) をあわせた造語です。盛岡大学・同短大部のテーマでもある「対話」を通じ、大学と社会、人と人をつなぐ広報誌を目指しています。



未来を創る対話

学校法人盛岡大学創立70周年・盛岡大学開学40周年を幕開けに

盛岡生活学園から始まる「学校法人盛岡大学」の歴史が幕を開けてから70年、「盛岡大学」が開学して40年を迎えます。

また、「盛岡大学短期大学部」はまもなく60周年となります。

積み重ねてきた長い歴史の節目に、あらためて本学の教育や研究、

在学生や卒業生たちの活躍を皆さまに広く知っていただくため、

このたび広報誌「MoriDialog (モリダイアログ)」を刊行することとなりました。

学校法人盛岡大学はこれからも、キリスト教の精神に基づき、

社会奉仕につながる人材育成に尽力する大学として、

教員と学生、社会と大学、それぞれの「対話」を通し

未来へと成長を続けていきます。

建学の精神

盛岡大学・盛岡大学短期大学部はキリスト教精神により、

教育基本法に則り、学術を教授研究し、

広い視野と高い識見を養い、

文化の向上と社会の福祉に貢献する有為な人間を

育成することを目的とします。

創立者・細川泰子先生の精神を引き継いで

盛岡大学・盛岡大学短期大学部の歴史は、昭和26年、創立者である細川

泰子先生が、その前身である盛岡生活学園を創設したことに始まります。

終戦間もない頃、人々の暮らしや食生活をよりよいものにしようと、料理や栄養学、洋裁などを自ら指導。学内には「いつも喜び、絶えず祈って、

すべてに感謝す」というキリスト教聖句の一節が掲示され、「愛と奉仕」を掲げるキリスト教精神がその教育の基盤となりました。

その後細川先生は、昭和39年には生活学園短期大学（現盛岡大学短期大学部）を、昭和56年には念願であった4年制大学である盛岡大学を開設し、

初代学長に就任しました。

「社会に貢献する人材を育成したい」というキリスト教精神に基づいた細川先生の教育への思いは、現在も変わることなく受け継がれ、多くの卒業生たちがその思いを胸に社会で活躍しています。

平成2年に亡くなった後も、「学園の母」として教え子や教職員たちに慕われる細川先生。70年前、一人の女性が踏み出した一歩が、今も多くの学生が学び社会へと巣立っていく、現在の盛岡大学・盛岡大学短期大学部へと続いています。

現在の学部・学科

盛岡大学	文学部	英語文化学科	日本文学科
		社会文化学科	児童教育学科
	栄養科学部	栄養科学科	
盛岡大学短期大学部		幼児教育科	

Let's talk about the future



児童教育学科3年 高橋瑞葉 英語文化学科3年 高橋奈々 幼児教育科2年 和井内和一

ごあいさつ

学校法人 盛岡大学理事長
山添 勝寛



盛岡大学・盛岡大学短期大学部初の広報誌「MoriDialog」の発刊に当たり一言ご挨拶申し上げます。

2021年、学校法人盛岡大学は創立70周年、そのなかの盛岡大学は、40周年の節目を迎えます。そして短期大学部はまもなく60周年です。この間の大学・短大の卒業生は2万6千人を数え、養成に力を入れている教員、管理栄養士、幼稚園教諭、保育者をはじめ公務員、マスコミ、金融機関など幅広い分野で活躍しています。就職先は岩手県内が多数を占め、他大学・短大と比較し大きな特徴になっています。もともと県内出身の学生が圧倒的に多いことによりますが、岩手の発展は盛岡大学・盛岡大学短期大学部が先頭に立つ時代が来るように思います。

今、世界は「コロナ禍」と闘っています。わが国はリスク回避のため、この機会に首都圏に集中している省庁や企業の本社機能を地方に分散させるべきだ、との議論が目立ってきました。一極集中の是正は「地方創生」にも弾みをつけることになるでしょう。いよいよ盛岡大学・盛岡大学短期大学部の“出番”です。

この広報誌を通じ皆さんに「地方創生」の一翼を担う盛岡大学・盛岡大学短期大学部の“素顔”を知っていただければ、こんなにうれしいことはありません。

盛岡大学・盛岡大学短期大学部学長
高橋 俊和



北東北の私立大学として、学校法人盛岡大学は創立70周年、盛岡大学は40周年の節目を令和3年に迎えます。さらに、本法人で歴史のある短期大学部は、まもなく60周年となります。地域の人々に支えられながら、大学・短期大学部はこれまでに2万6千人をこえる卒業生を社会に送り出してきました。改めて御礼申し上げます。

いま世界中の人々が、感染症 COVID-19 で不安を抱えながら、懸命に生きています。日本ではさらに、少子高齢化・グローバル化・情報化等の急激な社会の変化に直面し、予測不可能な時代に入ってきていることを実感させられています。こうした中で、これから社会を担っていく若い世代は、自分の可能性をどのようにして探り、また大学は彼らをどのように教育し支援していくことができるのか。高等教育機関として、本学は建学の精神に基づき、各学部・学科が持つ特長や個性を生かして、社会に貢献する人材を輩出していく義務があります。

本学の学生がどのような教育を受け、それが社会貢献にどう繋がっているのかを、大学進学を考える生徒・保護者の皆さんのみならず、広く地域社会の方々にも知ってご理解いただきたい。「MoriDialog」と題する本冊子が、その役割を担う広報誌として有効に機能することを期待します。

特別対談 理事長 × 学長 × 大学同窓会長 × 短大同窓会長

「建学の精神」を礎に、次世代の人材を育む

これまでの盛岡大学・盛岡大学短期大学部の歩みを振り返り、これから歩む学生たちを考える座談会を開催しました。盛大・盛短黎明期の思い出から、現在の学生に思うこと、そしてこれから本学が担う役割や学生に期待することなどについて語っていただきました。

地域に貢献できる人材を。

時代を生き抜き、

自ら考え、行動する。



盛岡大学短期大学部同窓会アネモネ会 会長
谷藤 育子

学校法人盛岡大学 理事長
山添 勝寛

盛岡大学・盛岡大学短期大学部 学長
高橋 俊和

盛岡大学聖陵同窓会 会長
菅原 元

創業者・細川泰子先生と盛大・盛短黎明期の思い出

谷藤 私は、創業者である細川泰子先生が設立した愛育幼稚園の最初の卒園生。後に短大に進学して先生と再会するのですが、いつもにこやかで優しい先生でした。いつでもふわっとしたワンピースを着ていらして、とてもおしゃれな方でした。私たち短大保育科の5回生は45人しかおらず、学生同士はもちろん先生方ともとても距離が近いので、保育士になりたいという夢を持つ仲間たちと共に非常に有意義な2年間を過ごしました。

高橋 細川先生はその後、厨川幼稚園と松園幼稚園もつくられて、とてもバイタリティのある方ですよね。

菅原 私は盛岡大学の1期生ですが、入学式に文部省(当時)の方々がざらりと列席され、細川泰子創立者の偉大さを知りました。当時の厨川キャンパスは小さくはありましたが、たいへんきれいでおしゃれな建物で、うれしく大学に通ったのを覚えています。1期生は約90人。先輩がいないからすべてを自分たちで決めていかなければならず、自然と独自性や積極性が養われた気がします。私たちが3年生の時に小学

校教諭の免許も取れるようになって、志願者や入学者が増えてきました。その頃から「先生になるなら盛大」というのが広まっていった気がします。

高橋 昭和63年～令和2年の本学の教員採用試験合格者は累計3000人を超えています。

菅原 近年の岩手県の小学校教員採用試験合格者のうち、3人に1人が盛大出身。県外で活躍している人も多くいますね。

現在の学生に思うこと

高橋 本学の建学の精神は「愛と奉仕」で

す。変化していく社会の中においてその精神をどう適応させていくのか、どのような教育を行っていくのが問われています。今の学生を見ていると、情報があふれるこのIT社会で自分の世界にこもってしまっている気がします。コミュニケーションがうまくとれない学生、文章を書けない学生が多くなっている印象を受けます。大学はさまざまな人が集まってくる場所。勉強はもちろん、人と触れ合い、交わり、いろいろなことを感じ、考える力を修得する場でもあると思います。

山添 最近、リスクコミュニケーションの

難しさが問題になっています。感染症などの会議の際に誤解を与える発言がよくあるというのです。これを防ぐには相手の立場に立って考え、話すこと。まさに「愛と奉仕」の精神です。

高橋 寺子屋時代から重視されていたのが「読み・書き・そろばん(計算)」。今の学生はあまり本を読まない。だから書く力が足りません。

山添 気候変動や自然災害、感染症など不安の多い時代。そんな不安に伝えてくれるのが文学や歴史。かつての人々が苦難をど

う乗り越えてきたかを学ぶことが大切です。それを教えていくのも、文学部を持ち、人文系のすばらしい先生がいる盛大の役割だと思います。

高橋 哲学、歴史、文学の学びは人間力をつくる基盤になります。デジタル化が進んでも最終的に判断するのは人間です。自分で考え、情報を取捨選択する力、人間性を身につけていかなければならないですね。

これからの盛大・盛短の役割とは

山添 新聞などで人や地域のために活動している卒業生を見ると、地方の大学の役割は、地域の発展に寄与する学生を育てることだとあらためて感じます。地方がますます重視されるポストコロナの時代。幼稚園から大学まで5つの学校を持つ学校法人盛岡大学だからこそ、その連携を生かして時代に合った大学づくりを進めていかなくてはと思います。現在、2つある幼稚園の認定こども園への移行、附属高校に新たに「高大連携コース」をつくり、大学の学びにスムーズにつなげていくことを計画しています。また人生100年時代において、リカレント(学び直し)教育にも対応していくことで盛大・盛短の存在意義を高めていけると考えています。

高橋 学生の皆さんには、大学生活の4年間または短大生活の2年間で、自分の内側にある大いなる可能性を見つけてほしいと思います。そして社会で生き抜く力の基礎を育んでほしい。読む、書く、対話することで訓練してほしいですね。

山添 社会で生きていくためには、実務的能力も必要ですが、その根底にはリベラルアーツ(一般教養)が必要不可欠。情報収集能力、それを判断する力、そしてそれを伝えていく表現力を身につけてもらいたいと願っています。

菅原 殻をやぶり、自分を変革する4年間であってほしいですね。学生時代のチャレンジや失敗は社会に出てから役に立つものです。いろいろな経験をして社会に出てほしいです。

谷藤 大学には、家族や友人、同僚など周りの人のことを思いやれる学生を育ててほしいと思います。「いつも喜び、絶えず祈って、すべてに感謝す」という細川先生が贈ってくださった言葉は今も私の宝物です。



ヒトをヒトたらしめる言語を、
データの収集と解析で
理論的に探求

理論から予測へ、観察から検証へ。
言語を理論的に説明する基礎研究

私の専門分野である理論言語学は、ヒトの言語を対象とする基礎研究です。基礎研究の成果を他学問との関係において社会の役に立つようにしたのが応用言語学です。私は理論言語学の立場から、主に英語と現代日本語の変化に焦点を当てて研究を行っています。

言語は、ヒトという生物にとっていちばん重要な能力であり、ほかの生物と区別される最大の特徴です。ヒトと言語をかけあわせることによって、文学部の主たる研究目的である「人間とは何か」を追求できるのではないかと考えています。

科学(学問)とは、理論があって、そこに予測が生まれるものです。理論を中心に、どのようなことが言語研究の対象となりうるのか、どのような証拠をもって論証されるのかを常に考えながら、データの収集と解析を行っています。文献資料を読み解くほか、学生が普段話す言葉もデータのひとつになります。



質の高い研究を行い、
その成果を大学教育へ還元

近年、本人が大学にいながら「明日大学に行く?」と尋ねる言葉を耳にします。これは、言語伝達する際の精神的拠点がスマートフォンを使用することによって大きく変化しているためではないかと私は考えています。2021年には言語変化のことについて書いた論文をノルウェーの学会で発表する予定です。

私が成し遂げたいのは「科学(学問)の復権」です。学生には基礎研究の大切さ、学びの楽しさを伝えていきたいと考えています。そのためにも自身の研究を質的にさらに高め、大学教育に還元することで、大学として果たすべき社会的責務に貢献していきたいと思っています。

文学部 英語文化学科
教授

たかはし ゆきお
高橋 幸雄

理論言語学の見地から、英語と現代日本語の変化について研究。論文執筆と学会での研究発表を継続的に行っている。著書・論文は、音声学や音韻論、意味論、言語の進化的戦略についての考察まで多岐にわたる。

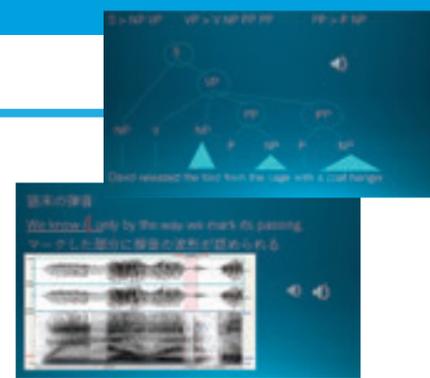
Faculty & Research

Episode

学会発表で得た転機。
「感謝」の気持ちを忘れない

これまで共筆著作9篇、77篇の論文を書き、国内外の学会で46回の発表を行ってきました。若い頃は壇上に立つだけで緊張し、頭が真っ白になったことも。学会発表は苦難の時でした。そんなとき、私の発表を「わざわざ聴きに

来てくださる方々」の存在に気づきました。聴いてくださる方への感謝を忘れてはならない、しっかりわかりやすく伝えなければ、という思いを持ってから、途端に落ち着いて発表に臨めるようになりました。



文学部 日本文学科
准教授

しよや まさひろ
塩谷 昌弘

石川啄木の表象研究を中心に、東北地域・岩手県に関わる文学者の研究を行う。東京都出身。2012年より盛岡大学文学部助教、2017年より同准教授。

「表象」|| 「表現されたもの」
から探る日本の文学

Faculty & Research

知られざる郷土の作家を
記録するのも自分の役割

石川啄木の表象研究をメインに、現代作家を含む東北地方や岩手に関わる文学者の研究に取り組んでいます。表象研究とは、ある対象がどのように表現されているかを検証する研究手法です。その対象がこれまでどう描かれたり、論じられたり、研究されてきたか、その背後にある思想や文化的背景を探りながら調べています。

また最近では、岩手日報社の「北の文学」に、釜石市出身の作家・小林美代子について寄稿しました。家族の病気や破産、自身の病気など幸せとはいえない人生を送り、50歳で作家としてデビューし、56歳で自ら命を絶った作家が、幸せに過ごした釜石での幼少時代を時代背景も含めながら考察しました。地元でもほとんど知られていない作家ですが、人々に記憶されるべき郷土の作家の一人だと思っています。

子ども向け偉人伝から探る、
石川啄木の表象の変遷

今取り組んでいるのは、児童向けの伝記や偉人伝において、石川啄木がどう描かれてきたかを探ることです。幼少期の天才ぶりや「一握の砂」などで知られる歌人ですが、その人生は決して品行方正な面ばかりではありません。戦後、急に子ども向け偉人伝などに多く収録されるようになったのはなぜなのか、どんなふう子どもたちに向けてプレゼンテーションされているのかなど、啄木表象の変遷をたどっていきたくしています。現在はリストアップの段階です。アニメ史やマンガ史ともクロスさせながら、研究を進めたいと思っています。

文学研究はすぐに役立つものではないかもしれませんが、文化的な基盤を守り、作っていくものだと考えています。



Episode

趣味の山登りを通して、
岩手山の表象について考える

趣味は山登り。県内外のいろいろな山に登りました。岩手の名峰・岩手山も、多くの作家や歌人、詩人の作品に登場します。宮澤賢治の詩や短歌に登場する岩手山は、臨場感がありますが、石川啄木の岩手山は具体性がなく、下から見上げている感じ。「啄木は岩手山に実際に登ったか否

か」という論争が存在するほどです。実際に山を歩くことでその表象のあり方に疑問を持ち、明治期の岩手の文芸誌を調査し、岩手山表象に関する論文も書きました。趣味と研究の一石二鳥ですね。



「帰還」とはなんなのか
避難民の調査から考える
「帰るべき場所」とは



激動期南北のスーダンを現地で体験

専門は文化人類学と地域研究、専門地域はアフリカです。北東アフリカのスーダン共和国、南スーダン共和国に暮らす人々の生活や宗教について調査・研究を続けています。

もともと一つの国だった南北スーダンは長い間内戦をしており、多くの人々が住む場所を失い難民となりました。そうした中、2011年にスーダン共和国から南スーダン共和国が独立。2011年から2012年にかけて、まさにスーダンが大きく変わろうとしていたとき、私は調査のため現地に長期滞在していました。

同じ国といっても、北（スーダン共和国）と南では言葉も文化も宗教も生活も違います。南スーダンの独立を受け、北に逃げていた人たちは南へと戻ってきました。しかし内戦は約30年にわたっていました。両親は南スーダン出身だけれど生まれも育ちも北スーダンという人たちもいます。そんなさまざまな背景を持つ人々に触れ、「人々にとって『帰還』とは何か」が私の主な研究テーマになっていきました。

研究結果が難民帰還支援の一助になれば

文化人類学の研究は、参与観察（長期にわたり一緒に暮らしながら観察すること）が主となります。南スーダンにルーツを持つクの人々と過ごす中で、難民にとって「帰還」とは、もともといた場所に戻るのではなく、それぞれが「帰るべき場所」をつくり、そこに向かう行為ではないかと私は考えました。その場所の一つではなく、その人の置かれた状況によっても変化していくものです。

研究結果は学会や論文などで発表してきましたが、例えば世界の難民の帰還支援を行っている国際機関などにこういった現実があることを伝え、支援の参考にしてもらいたいと考えています。

文学部 社会文化学科 准教授
とびない ゆうこ
飛内 悠子

専門地域はアフリカ（南北スーダン、ウガンダ）。2005年よりたびたびスーダンを訪れ、現地の人々とともに過ごしながら彼らの生活や宗教について調査・研究をしている。2018年より盛岡大学文学部准教授。



Episode 長い時には1年に及ぶこともある現地調査。スーダンってどんなところ？

南北スーダンに興味を持ったのは、学生時代のアラビア語の先生が北スーダン出身だったことから。北スーダンはグレープフルーツやハイビスカスティーなどが特産で、南スーダンは内戦の原因のひとつにもなりましたが石油産

出国でもあります。スーダンで好きな食べ物はピーナッツペースト。パンにつけたり、シチューに入れたりもします。オクラもよく食べます。オクラは民族語で「モラン」というんですよ。



文学部 児童教育学科 教授
おさだ よういち
長田 洋一
愛知県内の小学校で長年教鞭をとり、主に特別支援教育に携わる。即興劇を活用した心理劇的アプローチを通級指導教室で発達障害のある子どもたちに実践。2018年より盛岡大学文学部教授。

Faculty & Research

発達障害のある子どもたちの
対人スキルを高める
「心理劇的アプローチ」

障がいのある子どもたちと
現場で接して30年

小学校の教員として30年以上を過ごし、そのほとんどを特別支援教育に従事し、障がいのある子どもたちと関わってきました。最初の頃は特殊学級（現在の特別支援学級）、後に通級指導教室で、自閉症スペクトラムやADHDといった発達障害のある子どもたちを指導してきました。

発達障害の子たちは知的な遅れは軽度ですが、対人関係に困難を抱えている子が多いです。そのため、小学校の段階から人との関わり方のスキルを学ぶことはとても大切です。対人関係でつまずくと後の不登校やいじめにつながることもあり、将来この子どもたちが社会的に自立していくためにも、小学校の段階から対人スキルを学ぶ必要があると教師である私は感じていました。

「心理劇」の手順を、教育現場に合わせて
変更し実践

対人スキルを向上させるためには、主にソーシャルスキルトレーニングが用いられています。しかし、適用上の問題点も指摘されています。

そこで私は、ソーシャルスキルトレーニング以外の方法として「心理劇」に着目しました。即興劇である心理劇はこれまで福祉施設や病院などでしばしば用いられていましたが、小学校で実践されることはほとんどありませんでした。従来心理劇を学校でも適用できるように、内容や方法を一部変更し、「心理劇的アプローチ」として実施することにしました。実際に教育現場で実践してみて、子どもたちには「自信がついた」「会話スキルが身についた」などの効果が現れました。

この心理劇的アプローチが、発達障害のある子どもたちの対人関係の形成に有効であることが認められれば、今後、小学校の授業でソーシャルスキルトレーニングと同様に広く活用されていくのではないかと思います。



Episode 童話をもとに、自由に、即興的に演じる心理劇

私が実践した心理劇は、小学生でも取り組みやすいように童話をベースにし、その物語の本筋に従って自由に話したり動いたりする即興劇です。子ども2人と指導者1人の3人で行います。繰り返すことで、対人スキルが向上する効果がみられました。

大学の授業でもこのアプローチを紹介し、時には学生の皆さんにも実際に心理劇的アプローチを体験してもらっています。卒業生が教育の現場でこのアプローチを使い、子どもたちに効果が現れることを期待しています。

栄養科学部 栄養科学科

秦希久子准教授 / 障がい者の栄養・食生活支援



障がい者の健康づくりを、
「栄養・食生活」の観点から
考える

3度のパラリンピックに帯同。
パラリンピアンを食事面からサポート

地域で暮らす障がい者の皆さんの食生活と栄養について研究しています。障がいのある人が実際にどんな食事をしているのかをアンケートや聞き取りで調査し、それらの結果を考察し、障がいのある人が健康で元気に、自立して暮らしていけるよう、食事面や栄養面からの支援につなげていきたいと考えています。

また私は長年、管理栄養士として障がい者アスリートの強化育成や生涯スポーツの推進にも携わってきました。2004年のアテネ、2008年の北京、2012年のロンドンの3つのパラリンピックでは、日本選手団本部役員としてアスリートの食事をサポートするため現地に帯同。食事や栄養管理のアドバイス、サポートを行いました。

障がい者本人のみならず、支える周囲の人へのサポートも新たな研究テーマに

これまでは、障がいのある人々への食生活支援が主な研究でしたが、2016年に盛岡大学



に着任してからは、障がい者施設の給食についても研究するようになりました。最近では保健所とも協力し、障がい者施設に勤務する管理栄養士との合同研修会を実施。大学の栄養士・管理栄養士養成校では障がい福祉を学ぶ機会が少ないことから、情報共有や情報交換のいい機会になったと好評をいただいています。

これから日本は、さらに高齢化が進んでいきます。高齢になり体が不自由になる人も増えてくるでしょう。私が取り組む障がい者の食生活に関する研究が、地域に暮らす人々が生涯元気に暮らすために役に立てられたらいいなと思っています。

栄養科学部 栄養科学科 准教授

秦 希久子

学生時代からボランティアなどを通し、障がい者福祉と触れ合う。障がい者スポーツセンターに勤務後、障がい者の食事に対する理解を深めたいと考え病院に管理栄養士として勤務。障がい者スポーツにも造詣が深い。



Faculty & Research

Episode

岩手の障がい者スポーツの振興にも貢献していきたい

大学時代、障がい者向けのスポーツセンターでアルバイトし、そのまま就職。その後、管理栄養士としての知識や経験を生かしパラリンピック選手団の食事面のサポートをするなど、長らく障がい者スポーツに関わってきました。現在も、岩手県の障がい者スポーツの育成事業などに

携わっています。

右の写真は、久慈市で開催された卓球バレーの大会「あまちゃんカップ」の様子。国際協力機構（JICA）から招聘された、海外の障がい者スポーツの指導者も出場しています。

短期大学部 幼児教育科

石川正子教授 / 小児看護学、母性看護学



短期大学部 幼児教育科 教授

石川 正子

極・超出生体重児の母子関係、愛着障害、虐待を受けた子どものケアなどをテーマに研究。また盛岡大学短期大学部子育て支援事業として、学生とともに附属幼稚園にて子育て支援のボランティアも行う。

多面的な理解と実践力を備えた
質の高い保育者の
養成を目指して

虐待を防ぐには何が必要か。
助産師から研究の道へ

助産師として医療に携わっていた頃、命がけて出産した子どもを虐待していたという事例に遭遇しました。この事例や虐待を受けた子ども達のケアが契機となり、子どもの虐待をしてしまう親の心理状態を理解するために、「親」について研究をはじめました。その結果、虐待を生み出す背景として、孤立した子育て、生活上のストレス、社会的サポートの欠如などの問題があることを見出しました。親子が孤立せず、親子のニーズに添った適切なサポートを行うために、次に取り組んだのが子育て支援に関する研究でした。

子育て支援に関しては、実践研究として2011年から短期大学部の事業である子育て支援を主催するとともに、学生と共に附属幼稚園での子育て支援のボランティアを行っています。

質の高い保育者を養成するために
重要な幼児教育

虐待は、社会全体で早期発見・早期防止に取り組む必要があると考え、医療現場から虐待を発見する確率の高い保育者への教育に取り組むことにしました。特に保育所は、乳幼児が長い時間を過ごすところでもあり、保護者との関係性を築くところでもあります。子どもの命を守るためには、多面的な理解と実践力を備えた質の高い保育者を養成することが重要となります。

虐待を防ぐだけでなく、質の高い幼児教育が非認知能力やその後の学力向上に影響をもたらすといった研究成果が示されたことから、社会において幼児教育の重要性が認識されてきました。質の高い幼児教育を行うには、質の高い保育者が不可欠です。今後は、これまでの研究結果をふまえ、子育て支援や虐待を受けた子どものケアに関する研究を継続し、保育者としてのポテンシャルを高めるため、効果的な教育プログラムの構築にも取り組んでいきたいと思ひます。



Episode

研究結果は、教育の現場に還元できてこそ価値がある

盛岡大学短期大学部の「もりもり子育て支援事業」を担当するほか、いわて子ども希望基金助成審査委員や岩手県子育てサポートセンター運営委員なども務めています。子育てや乳幼児教育に関する講習会、研究会で講師としてお

話しする機会も多いです。私の研究は、机上で終わらせるのではなく、その研究結果や知見を教育現場に還元してこそ価値があるものだと思います。現在は、アメリカの公衆衛生学の博士と共同研究に取り組んでいます。





友人と出会い、
先生と出会い、
そして皆さんと出会い、
広がった世界

MY MU STORY

01

文学部 日本文学科 2年

藤澤 龍斗

(岩手県立盛岡第一高等学校出身)

教師への夢をかなえるために盛岡大学を選ば

浪人時代も含め、ずっと目をかけてくれていた中学時代の剣道部の顧問の先生がいました。その先生のように生徒に寄り添う教師に自分もなりたいと思い、教員養成に実績のある盛岡大学を選びました。将来は中学・高校の国語の教師を目指しています。

2年生になり教職の授業が始まったばかりですが、1年生のときに学んだ方言の講義がとてもおもしろかったので、言語学などが学べるゼミに入りたいと考えています。大学の先生は皆、知的探究心にあふれ、自分の研究について熱く語ってくれます。普段は気にもとめないようなことも、解説されると「ああ、そういうことか!」と納得。学ぶ楽しさを実感しています。

自分の世界を広げてくれた、盛大での出会い

先輩に誘われ、1年生からさんさ踊り実行委員会に所属しています。入学するまでさんさ踊りの経験はなかったのですが、見に行ってみたらとても楽しそうで、今年から委員長をつとめています。新型コロナウイルスの影響でこの夏のさんさ踊りは中止に。とても残念でした。小学校で空手、中学・高校で剣道と個人競技をしていた自分にとって、大勢が動きをそろえ、ともに踊り、ともに喜ぶさんさはとても新鮮な体験でした。

盛岡大学に入って出会った友人や先生、そしてさんさ踊りが、僕の世界を広げてくれました。「世界は出会いによって広がっていく」その経験を、後輩や将来の教え子にも伝えていきたいなと思っています。

MY CIRCLE

さんさ踊り実行委員会



例年 200 ~ 250 人が参加します。メンバーとリーダーで構成され、リーダーは練習メニューを決めたり参加するイベントを決めたりと、その年の盛大さんさを引っ張る役割を果たします。

さんさ踊りシーズンの平日は毎日 5 ~ 6 時間練習。練習の積み重ねで音がそろい、振りもそろうから迫力があります。そして自信がつくから笑顔にもなる。自分たちの笑顔が見ている人にも広がっていくのがいちばんの魅力です。

【受賞歴】

2019年 盛岡さんさ踊り〈パレード部門〉 優秀賞
2018年 盛岡さんさ踊り 最優秀賞
2017年 盛岡さんさ踊り 最優秀賞



卒業生メッセージ



盛岡大学を巣立った卒業生に、
学生時代の思い出や、後輩への
メッセージを聞きました。

盛岡大学の黎明期を 盛大生として過ごす

盛 岡大学児童教育学科の2回生として入学。まさに盛岡大学の黎明期を盛大生として過ごしました。

大学時代のいちばんの思い出は、高校から続けていた野球です。高速道路がまだなかった時代、秋田や青森へ長い時間をかけて出かけた遠征試合は今も記憶に残っています。

私が入学した当初、盛大では幼稚園教諭の免許しかとれず、3年生になったとき小学校教諭の免許も取れるようになりました。当時は男性保育士はめずらしい時代。実習に行くと保育とは無関係の力仕事をやらされたりも…。けれど後に小学校教諭の道を目指したとき、小学校に上がる前の子どもたちについて学べたことはい経験となりました。

卒論で取り組んだ「問題解決学習」が、 その後の教員生活の大きな助けに

卒 業論文は故・石井仁先生のもとで、当時日本では提唱され始めたばかりの「問題解決学習」をテーマに取り組みました。自ら問題を発見し解決していくという学習方法はその後急速に教育現場で取り入れられ、大学での学びが実践の場でも大いに役立ちました。石井先生には仲間もつとめていただき、卒業後もご自宅を訪ねたりと交流が続きました。

学生の皆さんには、自由に時間を使える学生時代に、できるだけいろいろな免許や資格をとってほしいと思います。就職した先ですぐに役立つ資格ばかりではないかもしれませんが、確実に見識は広がりますし、引き出しが多い方がその後の選択肢も広がります。教育現場では盛大出身の先生方も数多く活躍していますが、皆さん積極的にバイタリティにあふれた先生ばかり。卒業生として頼もしく感じています。



東日本大震災を釜石市内の小学校勤務時代に経験した千葉校長。子どもたちには、困っている人に手を差し伸べられる人間になってほしいと願っています。

学生時代にたくさんの方の引き出しを手に入れて、
社会で活躍してほしい



部署紹介 教職員が連携したサポート体制により、学生一人ひとりを支援します。

1 就職センター Career Support Center



就職センターでは主に、①キャリアサポートプログラム②就職ガイダンス・セミナー③公務員試験対策講座④インターンシップ⑤就職相談の5つの業務を通し、キャリア形成から就職支援まで幅広く学生をサポートしています。その中でも独自のキャリアサポートプログラムは1年次からスタート。早い時期から就職を意識した行動を学生に促し、4年次まで体系的かつ継続的に支援を行い、希望する進路の実現を目指します。

センター内では求人票や各企業の資料、検索PC、先輩たちの就職試験報告書などが自由に閲覧できるほか、進路の相談、履歴書の書き方、面接の練習などを職員がきめ細かに対応します。

本学の学生は、「礼儀正しく素直で明るい」「職場でリーダーシップを発揮している」「自信を持っていろいろなことに挑戦している」など就職先からの評価も高く、例年95%を超える学生たちが希望する進路を実現しています。



学生自身の積極的な取り組み、教職員の親身なサポート、そして本学のキャッチフレーズにもある「対話」を重視する盛岡大学・盛岡大学短期大学の個性が、高い就職率を実現しているのだと思います。企業が特に重視している「コミュニケーション能力」「社会人としてのマナー」「向上心」をさらに伸ばしていけるよう、引き続きサポートしていきたいと思えます。

就職センター 所長
英語文化学科 教授
新沼 史和

INFORMATION

寄付情報

**新型コロナウイルス感染症対策
学生支援寄付金**

遠隔授業実施に伴う情報関連機器整備についての学生負担及び家計が急変し修学が困難になった学生に対する経済支援を行うことを目的として寄付を募るものです。

■ 募集期間 令和2年6月29日～令和3年3月31日

[受付方法]

- ① 現金
- ② 金融機関専用振込用紙または ATM から

ア. 口座番号 北日本銀行本店
普通預金 番号 7089609

イ. 口座名義 学校法人盛岡大学 理事長 山添勝寛



**盛岡大学の「今」を知るなら、
公式 SNS へ！**

盛岡大学・盛岡大学短期大学部ではホームページのほか、LINE、Instagram、Twitter、Facebookからもさまざまな情報を発信しています。

オープンキャンパスなど各種イベントのご案内から、在学生の様子や各学科の紹介、海外研修レポート、さらには授業の様子や学食のメニューまで、盛岡大学の「今」をリアルタイムにお届けします。

各 SNS には、右の QR コードまたは本学ホームページからアクセスできます。ぜひお気軽に登録・フォローしてくださいね！

Morioka
SNS

LINE



Instagram



Twitter



Facebook

